

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 1	2	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 43	48	ヘルパンギーナ	↑ 8	3
咽頭結膜熱	↓ 32	37	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↑ 16	13
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↑ 52	49	急性出血性結膜炎	↑ 2	0
感染性胃腸炎	↑ 899	742	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 12	15
水痘	→ 61	61	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 28	29	無菌性髄膜炎	→ 1	1
伝染性紅斑 (りんご病)	↓ 1	2	マイコプラズマ肺炎	↓ 2	6
突発性発しん	↑ 54	39	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 水痘
- 突発性発しん

- 感染性胃腸炎は、報告数 899 件(前週報告数 742 件)と増加。地区別では、菊池、有明、宇城に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の 162 件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- 水痘は、報告数 61 件(前週報告数 61 件)と前週と同数。地区別では、有明、菊池、人吉、宇城に多く報告がみられます。年齢別では、2歳の 13 件を最多に主に 7 歳以下からの報告です。
- 突発性発しんは、報告数 54 件(前週報告数 39 件)と増加。地区別では、山鹿、菊池、天草に多く報告がみられます。年齢別では、6～11 月月の 27 件を最多に主に 1 歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所		10	17	31	260	21	12		16		2	4	2	10		1	2	
山鹿保健所					56		1		5			1	*	*				
菊池保健所		9	10	5	157	8	6	1	9			2		2				
阿蘇保健所					9	1							*	*				
御船保健所					7		1						*	*				
八代保健所		6	2	2	74	6	4		3		1							
水俣保健所		7			6				2				*	*				
人吉保健所		3			44	6	2		3				*	*				
有明保健所	1				168	12	1		7			3						
宇城保健所		7	2	5	94	6	1		3			6						
天草保健所		1	1	3	24	1			6		5							
計	1	43	32	52	899	61	28	1	54	0	8	16	2	12	0	1	2	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	
インフルエンザ	1																					
小児科定点年齢	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	43	12	14	12	3	1			1													
咽頭結膜熱	32		1	9	2	6	3	5	3	1			1		1							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52			2	1	2	5	8	9	13	1	4	6	1								
感染性胃腸炎	899	9	57	162	96	78	103	91	66	34	35	28	73	16	51							
水痘	61	2	9	10	13	11	6	5	1	3			1									
手足口病	28		6	14	5	1			2													
伝染性紅斑	1						1															
突発性発しん	54	1	27	24			1			1												
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	8		2	3	2							1										
流行性耳下腺炎	16			2	1	1	4	3	2	1		2										
眼科定点年齢区分	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	2												1					1				
流行性角結膜炎	12								1						3	4	2	1	1			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	1									1												
マイコプラズマ肺炎	2		2																			
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎: 山鹿、菊池、有明、宇城

感染性胃腸炎が5週連続で増加! 警戒が必要です!!

10月中旬以降、報告数は増加を続け、今週の報告数は899件でした。一定点当たりの報告数は18.73となり、警報レベル(20.00)に迫る勢いです。地域毎では、菊池、有明、宇城、山鹿の4地域で警報基準値を超えています。また、その他多くの地域で、報告数は増加傾向にあり、今後の流行状況に注意が必要です。感染性胃腸炎の原因には様々なウイルス、細菌などがありますが、これからの季節はウイルスによるものが増加します。特にノロウイルスは感染力が強く、集団感染の原因になることがあります。ノロウイルスに効く薬やワクチンはありませんので、予防が一番です。家庭内はもちろん医療機関や福祉施設、学校など集団生活の場でも、下記のポイントを参考に、しっかり予防に努めてください。

【ノロウイルスを予防する4つのポイント】

- ①生ものは極力避け、85℃で1分以上加熱調理しましょう。
- ②調理の前後、トイレやおむつ交換の後などは、必ずせっけん手で手を洗きましょう。
- ③調理器具の使用後は、ときどき塩素系漂白剤(塩素系漂白剤)に浸して殺菌しましょう。
- ④嘔吐物や便を処理するときは、マスクと手袋を着用し、周りを汚染させないようにしましょう。